

妊婦のサポート希求力

——フォーカス・グループ・インタビューからの因子分析——

田 中 響

第1章 序 章

1. 研究背景

現在の日本では、「子育ての孤立化」「母子カプセル化」と言われている¹⁾ように、母親が1人で育児を行っていることが多くなっている。多くの先行文献は、子育てには様々な不安やストレスがあり、育児支援や母親をサポートするシステムを作る必要があると述べている²⁾。

精神医学者である House の定義³⁾は、①情緒的サポート：共感したり、愛情を注いだり、信じあげたりする、②道具的サポート：援助を必要とする人に直接手助けをする、仕事を手伝ったり、お金や物を貸してあげたりする、③情動的サポート：個人的あるいは社会的な問題への対処に必要な情報や知識を提供する、④評価的サポート：個人の行動や業績に最もふさわしい評価を与える、の4つである。松井⁴⁾は、House のソーシャルサポートは4つの機能のうち、1つないしそれ以上の要素を含む相互作用と定義している。特に育児には、情緒的サポートと道具的サポートが必要であると言われている³⁾⁵⁾⁶⁾。

先行文献において育児支援のためのサポートは、育児不安の特徴や子育ての状況、子供の発達に合わせたサポートが必要であり⁵⁾、育児支援サポートのシステムづくりについては、父親が積極的に子育てに参加することが母親の育児不安や育児困難感を軽減するため父親の積極的な子育て参加ができるよう父親自身への働きかけと、父親が家事・子育てに参加することをさせる社会的な基盤整備が必要であると述べられている⁷⁾。また、出産後、地域における育児支援の重要性が述べられており、育児不安や育児困難を感じた時の相談できる場所や人の確保など地域における育児支援サポートシステムの充実が必要であると述べられている⁵⁾⁷⁾⁸⁾⁹⁾。育児とは子どもとの絶え間ない相互交渉である。育児ストレスとサポートの研究において、母親側の要因を考慮した研究は少なく、子どもが一方的にストレスサーとして扱われる事が多い。育児をする中で母親がストレスと感じる程度は母親により異なるのではないか。

これらの先行文献には、妊婦を取り巻く周囲の育児支援サポートの必要性やシステム作りについて多く研究されていたが妊婦の育児支援サポートを受けるために必要な力、妊婦自身のサポート希求の方法やサポートを享受するための環境や能力についての具体的な文献は乏しかった。また、母親側の特性を考慮に入れたサポートについての研究の集積の必要性についても述べられて

いる⁵⁾。

妊婦のサポート希求力について研究していく上で、女性が妊娠し母親となっていく過程においてどのように成長発達し、妊娠することで起こってくる様々な不安や危機について知っておく必要がある。女性は妊娠し母親になっていく過程で、身体的・精神的・社会的な問題や危機に直面し、それらの経験の中でアイデンティティを獲得し成長発達していく。

女性のアイデンティティの発達をみると、女性は結婚・育児、夫の転勤、親の介護などに自分を適応していくため、自分の一生を連続的なアイデンティティとして形成させていく、夫・子供・家族など、他者との関係性のなかでアイデンティティを獲得していく側面が強い。アイデンティティは、さまざまな危機に直面し経験することで獲得されていくといわれている。

まず、結婚し新しい家族がスタートする。結婚することで、夫と妻の双方がそれぞれの生まれ育った家族から自立して、夫婦関係の基盤を築き上げることで、結婚とはこれまでまったく異なった環境で育った男女が共同生活を始めることであり、お互いをよく理解するように努力し、夫または妻として相手から期待される役割に適応していくことが必要になる。そして、妊娠すると身体的な変化に伴う不快感や苦痛、精神的な不安を乗り越えなければならず、妊娠による家族への影響を考へるようになり、母親役割が果たせるかどうかの不安、出産という痛みや恐怖を乗り越えることができるかという不安に直面する。そして、新たに子供が家族に参入することで家事・仕事の役割を調整、夫婦による子育てと祖父母による子育ての役割調整も伴い、さまざまな危機に直面することになる。それらの危機を乗り越えていくためには、育児の場合と同様に様々な支援・サポートが必要なのである¹⁰⁾。

現在、新エンゼルプラン¹¹⁾などにより子育て環境の整備が進められているが、社会的環境としての子育て支援のサポートシステムが整っていても妊婦自身に十分にサポートを受けられる力がなければサポートシステムを十分活用することができない。

妊婦が母親になったときに、子供に対して与える側の人間になるためには、まず受け入れる側の人間になることが必要であると考えられている。妊娠期は「人に何かを与えるよりも与えてもらいたい（受容的傾向）」というニーズが高いといわれ、妊婦のこの受容的傾向は、与える側の人間になる準備段階として重要な意味をもつとされている。すなわち、家族や身近な人々からの献身的な愛やいたわり、安全の保証や保護、共感的理解、暖かい支持を提供され、さらに医療者からは、専門的関心、専門的知識に基づく保証、個を尊重したケアや擁護などを提供されることによって、妊婦の心的エネルギーが満ち溢れる。このエネルギーは、生まれてくる子供を育てるエネルギーの源になる¹²⁾といわれている。

ゆえに、母親となる妊婦が上手にそれらのサポートを享受する力＝サポート希求力をもつことが育児ストレスに対して上手に対処でき、健康な次世代育成へとつながり、よりよい社会を構築し、個々の人間が自分らしく、より良く生きていけることにつながっていくのではないかと考える。

2. 研究目的

本研究では、母親となる妊婦が、様々な問題を解決していくために必要な力の1つであるサポート希求について明らかにする。そして、妊婦を取り巻く様々なサポートを妊婦自身が、うまく活用するために必要な力やその成り立ちを検討していきたいと考える。

- 1) 妊婦が必要とするサポートが明確になる。
- 2) サポート希求力が明らかになる。
- 3) サポート希求力育成に関しての知見が得られる。

現在、行われている母親学級や保健指導が必要な理由として、妊婦は、①妊娠・出産・育児に関する基礎的知識が不足している、②知識はあるが、健康行動の実行に関する自信のなさや負担感が強い、③生活を整えていくための社会的・経済的条件が十分ではない、④知識や技術を習得する機会や場がない、⑤家族を含めた周囲の協力が得られない¹²⁾、などということがある。健康行動を行えるような行動変容を促す指導のためには、サポート希求力を明らかにし、サポート希求力育成に努めていく必要がある。

第2章 研究方法

1. 用語の定義

1) サポート希求力

子どもや育児に関する出来事や状況などが母親によって脅威であると知覚されることや、その結果、母親が経験する困難な状態を育児ストレスと定義付けられている¹³⁾。母親は様々な育児ストレスを抱え、ストレスに対して自分なりに何らかの対処を行いながら育児を行っていると考えられる。ストレスへの対処能力の1つにサポートを上手に受けること、サポート希求がある¹⁴⁾。

認知的、社会的なシステムも含めたサポート（支えること、支持、支援、助け。）や支援（ささえ助けること、援助すること。）を自ら希求（願い求めること。）でき、サポートや支援を受けるために必要な行動変容を起こそうとすることができる、または、起こすことができる力をサポート希求力とする。

2) 里帰り出産

妊婦は、一般に妊娠35週くらいまでに、実家に帰り、実家の近くの病院で分娩、産後1～2か月まで実家の家族のサポートを精神的、身体的、社会的面すべてにおけるサポートを受ける事が出来る日本やオーストラリアでみられる出産の慣習である。里帰り出産を行う利点は、前述したように精神的、身体的、社会的面すべてのサポートを受けることが出来る。しかし、欠点として実家の近くの出産施設を探し、受診したり妊娠中に通院している病院との連携をとる必要があること、妊娠後期から、パートナーや家族とおおよそ3か月間離れて生活することで密なコミュニケーションの必要があること、上の子がいる場合は特にパートナーやパートナーの実家の理解が必要なことが挙げられる¹⁵⁾。

3) パートナー

胎児の父親または血縁関係がなくても妊婦自身がパートナーであると認識している人とする。パートナーの存在は身体的、精神的、社会的にも妊婦に与える影響が大きい。配偶者や家族の定義が現代社会の中で多様に変化しているように、結婚、入籍しているかどうかは関係なく、妊婦自身がパートナーと認知していることが大切であると考ええる。

4) 家族

血縁関係だけでなく精神的な思いやりでつながった、絆を感じる温かい共同体であるという意識を共有している人や集団とする¹⁶⁾。

2. 研究デザイン

妊娠中の女性を対象とし、フォーカス・グループ・インタビュー法（以後、F. G. I とする）を用い、質的に内容分析を行い、その結果から質問紙を作成し、質問紙法による調査を行う。

3. 調査方法

1) 対象者

①F. G. I

A 市立病院の分娩予定者で、A 市立病院が主催する母親学級を受講した妊婦のうち、研究に承諾の得られた健康な妊婦 9 名を対象とした（表 1）。F. G. I は前期母親学級 4 名（つわりの時期を含み、初産婦が多くの割合を占める）と後期母親学級 5 名（分娩に近い時期であり、初産婦・経産婦ともに受講し経産婦の参加割合が多い）の 2 回行った。調査期間は 2008 年 8 月の母親学級開催日の 2 日間である。

②質問紙

A 市立病院に通院中であり、A 市立病院で分娩予定の健康な妊婦 105 名である。そして、調査期間内に妊婦健診を受診した妊婦で、研究の依頼を文書で行い、研究に承諾の得られた妊婦を対象とした。調査期間は、2008 年 9 月の 3 週間とした。

2) 調査内容

本研究の調査内容は以下の通りである。

①F. G. I

妊婦自身の現在の状況や過去の経験、希望などから、妊婦が必要としているサポートまたどのようなサポートを妊婦は受けているのかを調査する。そして、それらのサポートを受けるために妊婦自身が持つべき力や周りの環境について調査する。

以上の内容について、F. G. I を行い、内容を逐語録とし、内容分析を行う。

②質問紙調査

①の結果より、サポート希求力の 6 つのカテゴリーからそれぞれ 5~10 の質問項目、合計 50 問（表 5）を作問し、健康な妊婦に質問紙調査を行う。調査結果を因子分析し、サポート希求力

を明らかにする。

4. 統計的手法

F. G. I については、内容を逐語録とし、内容分析を行い、サポート希求力に関連する文脈を抽出しラベル化し、類似性にそって分類、カテゴリーを形成し、質問を作成した。質問紙調査は、得られたデータを SPSS student version 13.0 J を用いて分析した。背景要因によるサポート希求力への関連と傾向を分析するため、順序相関 Kendall τ 検定を行った。そして、サポート希求力についての質問項目の因子分析を行った。

5. 倫理的配慮

研究への参加は対象となる人の自由意志を尊重し、研究目的・方法、拒否や中断の権利等について、依頼文と口頭で十分に説明し、同意書に署名し研究終了時まで保存しておく事を約束した。また、質問紙調査は無記名とし、研究協力を拒否する場合は質問紙の提出の必要がない事を依頼文にて説明した。得られたデータは対象者のプライバシー保護に十分留意して、保存及び処分することにした。なお、本研究は研究計画書を H 大学研究倫理委員会に申請し、承認を得、A 市立病院の倫理委員会に申請し、承認を得た後に実施した。

第3章 結果

1. F. G. I について

1) 対象者の特性：

対象者の背景は、A 市立病院の母親学級受講後の妊婦で本研究に参加、協力の同意が得られた妊婦 9 名である。初産婦 6 名、経産婦 3 名。平均年齢は 27.33 歳 (SD 4.47)、平均妊娠週数は妊娠 30.33 週 (SD 3.71) であった (表 1)。

表 1 F. G. I 対象の特性 (n=9)

		年齢 (歳)	出産経験	妊娠数数 (週)
1 回目	A	32	初産婦	28
	B	33	初産婦	27
	C	29	初産婦	24
	D	24	初産婦	28
2 回目	E	30	経産婦	34
	F	23	初産婦	34
	G	25	初産婦	33
	H	30	経産婦	31
	I	20	経産婦	34

2) サポート希求力について：

妊婦からのデータを内容分析し、カテゴリー化した結果を表2から表4に示し、以下に述べる。(以後、メインカテゴリーを『 』、サブカテゴリーを〈 〉として表記し、さらに下位のカテゴリーを〔 〕で、「 」は要約を表記する。)

メインカテゴリーは『妊婦のサポート』『サポート希求力』『学校教育』の3つに分類できた。

まず、3つのメインカテゴリーの1つである『妊婦のサポート』は、〈家庭〉〈仲間〉〈社会の理解〉〈専門家〉〈つわりの時期〉の5つのサブカテゴリーから構成されていた。『妊婦のサポート』はサポート希求する対象や時期や環境システムなど全てである(表2)。

次に2つめのメインカテゴリーである『サポート希求力』は〈自分自身をメタ認知できる〉〈ありのままの自分を他者に表現できる〉〈アサーティブに他者と向き合う〉〈他者に自分を理解してもらおう〉〈他者への感謝の気持ちをもつ〉〈理解しあおう〉の6つのサブカテゴリーからなっていた。妊婦が様々なサポートを希求するために必要な力である(表3)。

3つ目のメインカテゴリー『学校教育への希望』は、対象となった妊婦がすでに受けてきた学校教育の学びの中から、今後の学校教育への希望として抽出された内容である。それらは〈月経教育〉〈妊娠に対する教育〉〈命の大切さ〉の3つのサブカテゴリーに分類された(表4)。

3) サポート希求力に関する質問紙項目の作成

表2～表4の結果と先行文献より、質問項目43項目を作成した。また基礎データ項目を3項

表2 妊婦のサポート

メインカテゴリー	サブカテゴリー	下位のカテゴリー
妊婦のサポート	家庭	実家のサポート
		義父母のサポート
		パートナーのサポート(理解、行動)
		家族の理解
		家族の信頼
	仲間	同じ妊娠週数の友人
		育児休暇明けの職場の友人
		メール交換する友達
		口コミ情報
		同じ目線で教えてくれる友人
		産後日数の少ない友人
	社会の理解	職場の理解
		他人からの理解
		妊婦を理解するための教育
		妊婦への気遣い
	専門家	病院
		助産師
	つわりの時期	サポートが一番欲しい時期

表3 サポート希求力

メインカテゴリー	サブカテゴリー	下位カテゴリー
サポート希求力	自分自身をメタ認知できる	自分の出来ないことを認める
		助けて欲しいことが具体的にわかる
		自分のストレス解消法を知っている
	ありのままの自分を他者に表現できる	甘え上手になる
		自分の思いを言葉にして気持ちを伝える
		助けて欲しいといえる勇氣
		良い娘・嫁でいようと思わない
	アサーティブに他者と向き合う	上手に頼む
		解ってもらえるまで言う
		角が立たないように話す
	他者に自分を理解してもらう	夫への妊娠教育
		社会での妊娠教育
		妊娠を気付いてもらう
	他者への感謝の気持ちをもつ	感謝する
		うれしい気持ちを表現する
理解しあう	相互理解	
	コミュニケーションが良い	
	妊娠前からの人間関係が良い	

表4 学校教育への希望

メインカテゴリー	サブカテゴリー	下位カテゴリー
学校教育への希望	月経教育	初潮や生理時の対応方法
		保健の授業や助産師から
		ポジティブに捉えられるような教育
		時期は小学校高学年とする
	妊娠に関する教育	妊娠することで心身にどのような影響があるのか変化するのかを教育する
		妊婦を見たら電車やバスの席を譲る
	命の大切さ	思いやりの気持ちを育てる教育

目、教育に関する調査項目を記述式とし4項目を合わせ、全部で50項目の質問紙を作成した(表5)。

なお、パートナーや実父母などからのサポートに関する質問(項目7~13)については関連要因である。

2. 質問紙調査について

1) 対象者の特性:

A市立病院の産科外来へ調査期間内に妊婦健診を受診した妊婦で、研究に承諾の得られた妊婦105名に質問紙を配布し、記入後、産科外来に設置した質問紙回収箱に投函してもらった。回

表5 サポート希求力に関する質問項目

関連要因（基礎データ）
<ol style="list-style-type: none"> 1. 年齢 2. 初産婦か経産婦 3. 妊娠週数 4. 里帰り分娩の有無 5. 友人の有無 6. 友人とどこで知り合ったか
関連要因及び結果
<ol style="list-style-type: none"> 7. パートナーからのサポートを受けているか 8. 実父母からのサポートを受けているか 9. 義父母からのサポートを受けているか 10. 兄弟、姉妹からのサポートを受けているか 11. 友人からのサポートを受けているか 12. 社会的サポートを受けているか 13. その他のサポート
サポート希求力
<ol style="list-style-type: none"> 14. パートナーのサポートを受けることができる（声かけ、認めてくれる、労ってくれる、気持ちがかかる） 15. 身近な人との人間関係がよい 16. 妊婦検診を定期的に必ず受診する 17. 妊娠や出産の怖さを知っている 18. 何か行動する時常に自分の健康状態を考えている 19. 自分の健康状態の悪化を早めに気が付くようにしている 20. おなかが大きくなってきた姿や妊娠線など体の変化が受容できる 21. 妊娠による不快な症状（マイナートラブル）への対処ができる 22. 緊急時（おなか張ったり、出血したりした時）の対処ができる 23. 母親学級を受講することができる 24. 出産や育児のための社会的支援（妊婦健診の費用の公費負担、養育医療など）を活用できる 25. 妊娠、出産後、様々な相談できる所を活用できる 26. 分娩や出産に関して計画を立て準備ができる（分娩施設の決定や入院中の家族のサポートなど） 27. 自分の様々な問題を解決するための行動が起こせる 28. 実母や義母の手助けを受けることができる 29. 妊娠や育児の情報に興味を持ち、自然と耳が傾く 30. 家族といつも良いコミュニケーションを持っている 31. 友人とのネットワークがある 32. 自分は甘え上手である 33. サポートを受けるためには自分のプライドを捨てる勇気が必要 34. 良い娘、良い嫁だと思われようとしないことが上手にサポートを受ける為には必要である 35. 自分の気持ちをありのまま表現（言葉や行動）することがサポート受けるためには必要である 36. 妊娠中の身体的、心理的な苦痛をパートナーが理解してくれる 37. 困ったときに相談できる専門家がいます（身近な専門家・助産師、看護師、保健師など） 38. 誰にでも感謝することができる気持ちを持っている 39. 自分自身の感情をうまくコントロールできる 40. パートナーは妊娠の大変さを理解し、父親としての自覚を持っている 41. 家族の絆がある 42. 言いたいことが言えなくても代弁してくれる人がいる 43. 立ち直る力（レジリエンス）がある 44. 物事をやり遂げ、継続する力（根気）がある 45. 今の自分の状態（気持ちや要望）を身近な人に表現し、伝えることができる 46. さまざまな問題が起こってもポジティブに考えるようにしている
関連要因（学校教育への希望）
<ol style="list-style-type: none"> 47. 中学・高校の教育で妊娠、出産、育児に関して役立っている、または覚えている内容がありますか 48. 覚えている内容はなんですか 49. 妊娠、出産、育児について、中学・高校に望む教育
その他（サポート希求力の内容）
<ol style="list-style-type: none"> 50. サポートを受けるのに必要な力はどのようなこと（自由記述）

表 6 質問紙調査対象者の特性 1 (n=102)

年齢 (平均)	29.99 歳 (SD 5.24)		
妊娠週数 (平均)	妊娠 28.32 週 (SD 8.81)		
出産経験 (人)	初産	42	41.2%
	経産	60	58.8%
里帰りの有無 (人)	里帰りである	31	30.4%
	里帰りでない	68	66.7%
	不明	3	2.9%
親しい友人の有無 (人)	いる	93	91.2%
	いない	8	7.8%
	不明	1	1%
学校教育の影響 (人)	ある	23	22.5%
	ない	76	74.5%
	不明	3	3%

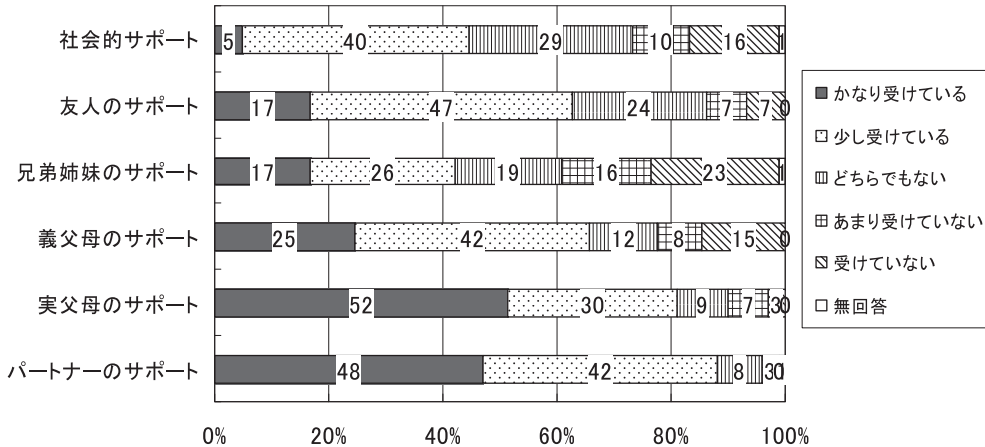


図 1 質問紙調査対象者の特性 2

収率は 97.1% (102 名回収) であった (表 6、図 1)。

2) サポート希求力と関連する要因について

(1) サポート希求力とサポート希求力に関連する要因

サポート希求力と関連する要因を明らかにするために χ^2 検定を行った。

「出産の経験」初産婦、経産婦の差によるサポート希求力への関連性は、サポート希求力の項目全てにおいて有意に関連していなかった。最も有意に関連している項目数が多かったのは、「パートナーのサポート」を受けているかどうかであり、サポート希求力 33 項目中 16 項目に関連がみられた。次に多く関連していたのは、「兄弟姉妹のサポート」で 13 項目に関連を示し、3 番目に多く関連していたのは、「親しい友人」の有無で 12 項目であった。「実父母のサポート」は 4 項目のみの関連を示していたが、「義父母のサポート」は 10 項目との関連を示した。また、「学校教育の影響」に関連していた項目は、項目 34. 「良い娘、良い嫁だと思われようとしなことが上手にサポートを受ける為には必要である」、と項目 37. 「困ったときに相談できる専門

家がある」の2項目であった。

サポート希求力の項目について見てみると、サポート希求力に関連する要因12項目のうち、一番多くの項目に関連していたのは、項目26.「分娩や出産に関しての計画が立てられ準備ができる」であり、「親しい友人の有無」「パートナーのサポート」「実父母のサポート」「義父母のサポート」「兄弟姉妹のサポート」「友人のサポート」「社会的サポート」の6項目と関連していた。

(2) サポート希求力関連要因間相互関連

サポート希求力の関連要因間の相互関連性を検討するために χ^2 検定を行った。「里帰りの有無」と「出産経験」「実父母のサポート」は関連しあっていた。そして、「実父母のサポート」は「里帰り」「義父母のサポート」「兄弟姉妹のサポート」「友人のサポート」と関連しあっていた。「義父母のサポート」は「出産経験」「実父母のサポート」「友人のサポート」「社会的サポート」と関連していた。「パートナーのサポート」と関連していたのは「友人のサポート」のみであった。「学校教育の影響」は他の要因と関連がなかった。「実父母のサポート」「義父母のサポート」「兄弟姉妹のサポート」など身近な人のサポートが相互に関連していたが、「パートナーのサポート」は別であった。

(3) サポート希求力と関連要因との順序相関

質問項目2、4、5、7、8、9、10、11、12、47（サポート希求力に関連する要因）と14～46（サポート希求力）の関連性について順序相関 Kendall τ 検定を行った（表7）。初産・経産婦の「出産経験」の違いによる、サポート希求への関連は、項目40.「パートナーは妊娠の大変さを理解し、父親としての自覚を持っている」だけが経産婦の方が高いという関連を示していた。「里帰りの有無」にはサポート希求力への有意な順序相関がみられなかった。「友人の有無」はサポート希求力33項目中16項目に関連が見られ、友人がいる方がサポート希求力に高い関連を示していた。「パートナーのサポートの有無」は、サポート希求力33項目中21項目に、パートナーサポートがある方にサポート希求力が高いという関連があり、サポート希求力への関連が一番高い事示していた。「実父母のサポート」は5項目、「義父母のサポート」は10項目、「兄弟姉妹のサポート」は13項目、「友人のサポート」は12項目、「社会的サポート」は13項目、「学校教育の影響」は3項目に関連が見られ、それぞれサポートがある方にサポート希求力が高い事を示していた。

学校教育の影響に関連する項目は、項目15.「身近な人との人間関係がよい」と項目36.「妊娠中の身体的、心理的な苦痛をパートナーが理解してくれる」と項目37.「困ったときに相談できる専門家がいる」の3項目であった。

サポート希求力の全ての項目は、サポート希求力に関連する要因が少なくとも1つ以上は関連していた。サポート希求力に関連する要因が、サポート希求力に全く関連しない項目はなかった。

サポート希求力に関連する要因が一番多く関連していたのは、項目26.「分娩や出産に関しての計画が立てられ準備ができる（分娩施設の決定や入院中の家族のサポートなど）」で7項目が

表7 サポート希求力と関連要因の順序相関表 (Kendall τ 検定)

	産婦種類	里帰り	友人の有無	パートナーのサポートの有無	実父母サポート	義父母サポート	兄弟姉妹サポート	友人サポート	社会的サポート	学校教育
14. パートナーからのサポート受容	0.042	0.029	-0.029	0.345**	0.055	0.177*	0.175*	0.063	0.005	-0.193
15. 身近な人との人間関係	-0.052	-0.111	-0.291**	0.286**	0.172	0.146	0.103	0.212*	-0.007	-0.223**
16. 健診の定期的な受診	0.020	0.043	-0.172	0.221*	0.092	0.049	0.121	0.125	0.048	-0.033
17. 妊娠・出産の怖さを認知	0.196	0.050	0.018	0.106	-0.040	-0.046	0.053	0.188*	0.105	0.016
18. 自分の健康状態を考える	-0.075	-0.122	-0.095	0.197*	-0.033	0.057	0.107	0.067	0.077	-0.158
19. 健康状態悪化の早期発見	0.000	-0.167	-0.030	0.225*	0.016	0.083	0.143	0.096	0.143	-0.059
20. ボディイメージ変化の受容	-0.087	-0.062	-0.152	0.238**	0.037	0.066	0.104	0.176*	0.194*	-0.141
21. マイナートラブルへの対処	0.077	-0.027	-0.208*	0.140	-0.085	0.004	0.096	0.029	0.128	-0.158
22. 緊急時の対処	0.104	-0.049	-0.243**	0.210*	-0.010	0.083	0.076	0.106	0.179*	-0.052
23. 母親学級の受講	-0.158	-0.180	-0.085	0.056	0.120	0.139	0.190*	0.096	0.144	-0.029
24. 社会的支援の活用	0.018	0.004	-0.182	0.253**	0.067	0.120	0.063	0.025	0.373**	-0.029
25. 相談場所を活用する	-0.090	-0.063	-0.127	0.276**	0.178*	0.170*	0.238**	0.151	0.211*	-0.136
26. 出産の準備や計画が出来る	0.063	-0.113	-0.335**	0.255**	0.356**	0.243**	0.342**	0.215*	0.255**	-0.095
27. 問題解決のための行動力	0.073	-0.031	-0.249**	0.288**	0.096	0.171*	0.211*	0.127	0.244**	-0.057
28. 実母などのサポート受容	0.073	-0.055	-0.253**	0.150	0.357**	0.418**	0.254**	0.175*	0.218*	-0.114
29. 妊娠などの情報に興味がある	-0.160	-0.170	-0.256**	0.265**	0.121	0.112	0.202*	0.235**	0.144	0.034
30. 家族との良いコミュニケーション	0.052	0.023	-0.227*	0.362**	0.143	0.286**	0.154	0.209*	0.151	-0.070
31. 友人のネットワークがある	-0.014	-0.087	-0.277**	0.144	0.057	0.140	-0.031	0.36**	0.197*	0.097
32. 甘え上手である	-0.152	-0.140	-0.225**	0.166	0.076	0.085	0.106	0.123	0.091	-0.134
33. プライドを捨てる勇氣	0.000	-0.128	-0.135	0.053	0.098	-0.008	0.123	0.275**	0.012	0.056
34. 良い嫁と思われたい	0.056	-0.021	-0.049	0.090	0.152	0.134	0.097	0.175*	0.050	0.039
35. ありのままに自分を表現	0.064	0.056	-0.091	0.222*	0.168	0.182	0.154	0.298**	0.158	0.003
36. パートナーの理解	-0.094	-0.028	-0.121	0.404**	0.204*	0.231**	0.323**	0.170	0.245**	-0.192*
37. 相談できる専門家がいます	-0.087	-0.015	-0.161	0.294**	0.108	0.150	0.242**	0.112	0.163	-0.283**
38. 感謝の気持ち	0.006	-0.021	-0.103	0.166	0.108	0.236**	0.147	0.174	0.196*	-0.128
39. 感情のコントロール	0.070	-0.022	-0.253**	0.169	-0.013	-0.007	-0.177*	0.097	0.092	-0.070
40. パートナーの父親としての自覚	0.197*	0.147	-0.205*	0.469**	0.126	0.264**	0.220*	0.122	0.199*	-0.106
41. 家族の絆	0.132	0.051	-0.203*	0.474**	0.174	0.310**	0.254**	0.204*	0.285**	-0.149
42. 代弁してくれる人がいる	-0.021	0.114	-0.147	0.140	0.175*	0.088	0.300**	0.009	0.046	-0.172
43. 立ち直る力がある	-0.003	-0.070	-0.316**	0.287**	0.138	0.054	-0.002	0.115	0.133	0.006
44. 根気がある	0.028	-0.126	-0.266**	0.208*	0.039	0.008	-0.045	0.117	0.160	0.088
45. 気持ちを表現できる	0.089	0.044	-0.263**	0.241**	0.152	0.168	0.121	0.256**	0.306**	-0.054
46. ポジティブに考える	0.035	0.072	-0.176	0.027	0.031	-0.030	-0.093	0.056	0.191*	0.071

関連していた。

3) サポート希求力の因子分析

因子分析の目的は、F. G. I の結果と先行文献より、抽出されたサポート希求力について出来るだけ共通因子の少ない項目を抽出し、サポート希求力をより具体的な項目として査定するのである。

(1) 因子分析

①天井効果、フロア効果の有無

まず、サポート希求力 33 項目の平均値、標準偏差を算出した。そして天井効果のある項目の確認をした。

天井効果があったのは、項目 14・5.22 (平均+SD)、項目 15・5.12 (平均+SD)、項目 16・5.17 (平均+SD)、項目 24・5.04 (平均+SD)、項目 28・5.24 (平均+SD)、項目 30・5.09 (平均+SD)、項目 36・5.03 (平均+SD)、項目 41・5.14 (平均+SD) の 8 項目であった。本研究の目的は F. G. I の結果や先行文献より明らかになったサポート希求力をより具体的な項目として査定することであるため、天井効果のみられた項目は除外し、因子分析した。

②因子数の検討

サポート希求力の項目はそれぞれが独立していることは少なく、何らかの相関関係があり、共通性があると考えられるため、分析方法は、主因子法 Promax 回転による因子分析を行い、因子数を以下の5つから検討した。

- 研究者の仮説は、F. G. I の分析結果より6因子とする。
- 主因子法 Promax 回転による因子分析の結果と固有値が1以上の因子数は第7因子である。
- 固有値やスクリープロットを見て、固有値が大きく落ち込む所は、前後の因子間の固有値の差を算出してみると第7因子と第8因子の差(0.11)が前後に比べて差が大きく、8因子と仮定する。
- 累積寄与率が50%を越える因子数としては第5因子である。
- 固有値の変化で1を越えるのは、3因子である。

主因子法 Promax 回転による因子分析を行った結果、3因子が一番、除外する項目が少なく、各因子の項目数が、7項目、8項目、5項目に分類された。

したがって、因子数は3因子が妥当と考えられた。

③因子の命名

3因子数で、Promax 回転後の最終的な因子パターンと因子間相関を表8に示す。なお、回転前の3因子で23項目の全分散を説明する割合は47.23%であった。

表8 サポート希求力の因子分析結果 (Promax 回転後の因子パターン)

項目内容	I	II	III
46. さまざまな問題が起こってもポジティブに考えるようにしている	0.820	-0.209	0.007
39. 自分自身の感情をうまくコントロールできる	0.794	0.023	-0.048
44. 物事をやり遂げ、継続する力(根気)がある	0.777	0.054	-0.060
45. 今の自分の状態(気持ちや要望)を身近な人に表現、伝える事ができる	0.696	0.148	-0.110
43. 立ち直る力(レジリエンス)がある	0.659	-0.119	0.134
38. 誰にでも感謝することができる気持ちを持っている	0.515	0.154	-0.114
31. 友人とのネットワークがある	0.395	0.058	0.160
25. 妊娠、出産後、様々な相談できる所を活用できる	-0.089	0.720	-0.004
29. 妊娠や育児の情報に興味を持ち、自然と耳が傾く	-0.051	0.716	-0.126
26. 分娩や出産に関しての計画が立てられ準備ができる	0.065	0.685	-0.020
18. 何か行動する時常に自分の健康状態を考えている	-0.079	0.535	0.266
20. おなかが大きくなってきた姿や妊娠線など体の変化に受容できる	0.048	0.515	0.093
23. 母親学級を受講することができる	0.044	0.473	-0.150
21. 妊娠による不快な症状(マイナートラブル)への対処ができる	0.280	0.400	0.147
27. 自分の様々な問題を解決するための行動が起こせる	0.267	0.367	0.112
33. サポートを受けるためには自分のプライドを捨てる勇気が必要	-0.078	-0.011	0.568
34. 良い娘、良い嫁だと思われようとしないこと	0.134	-0.250	0.565
35. 自分の本当の気持ちをありのまま表現(言葉や行動)すること	0.115	-0.059	0.564
17. 妊娠や出産の怖さを知っている	-0.078	0.195	0.473
42. 言いたいことが言えなくても代弁してくれる人がいる	-0.111	0.058	0.453
因子間相関	I	II	III
I 自己コントロール	-	0.47	0.51
II 自分の健康に関する意識や行動		-	0.39
III 対人関係			-

第1因子は7項目で構成されており、「さまざまな問題が起こってもポジティブに考えるようにしている」「自分自身の感情をうまくコントロールできる」「物事をやり遂げ、継続する力（根気）がある」など、自分自身の自尊感情を高め、物事に関してポジティブ思考ができ、継続していくために自分をコントロールできる内容の項目が高い負荷量を示していた。そこで「自己コントロール」と命名した。

第2因子は8項目で構成されており、「妊娠、出産後、様々な相談できる所を活用できる」「妊娠や育児の情報に興味をもち、自然と耳が傾く」「分娩や出産に関しての計画が立てられ準備ができる（分娩施設の決定や入院中の家族のサポートなど）」「何か行動する時常に自分の健康状態を考えている」など健康や妊娠に対する知識を持ち健康的に考え行動できる内容の項目が高い負荷量を示していた。そこで「自分の健康に関する意識や行動」因子と命名した。

第3因子は5項目で構成されており、「サポートを受けるためには自分のプライドを捨てる勇気が必要」「良い娘、良い嫁だと思われようとしなくていいことが上手にサポートを受けるためには必要である」など、ありのままの自分を他者に表現できる内容の項目が高い負荷量を示していた。そこで「対人関係」因子と命名した。

(2) 下位項目間の関連

サポート希求力の3つの因子に相当する項目の平均値を算出し、「自己コントロール」因子得点（平均 3.84、SD 0.61）、「自分の健康に関する意識や行動」因子得点（平均 4.05、SD 0.50）、「対人関係」因子得点（平均 3.65、SD 0.51）とした。内的整合性を検討するために各因子の α 係数を算出したところ、「自己コントロール」では $\alpha = 0.85$ 、「自分の健康に関する意識や行動」で $\alpha = 0.81$ となり、高い値が得られた。また「対人関係」では、 $\alpha = 0.64$ とやや低めの値が得られた。

サポート希求力のカテゴリー間の相関を表9に示す。3つの因子は互いに有意な正の相関を示した。

(3) サポート希求力へ関連する要因とサポート希求力（3因子）の順序相関

「自己コントロール」「自分の健康に関する意識や行動」「対人関係」の3因子とサポート希求力関連要因10項目との順序相関を検定した（表10）。有意な関連が認められた要因について、相関の強い順に列挙する。

「自己コントロール」は「友人の有無」「社会的サポート」「パートナーのサポート」「友人のサポート」による有意な関連がみられた。

表9 サポート希求力のカテゴリー間相関（Kendall τ 検定）と平均、SD、 α 係数

	自己 コントロール	自分の健康に関する 意識や行動	対人関係	平均	SD	α
I 自己コントロール	—	0.41**	0.27**	3.84	0.61	0.85
II 自分の健康に関する意識や行動		—	0.27**	4.05	0.50	0.81
III 対人関係			—	3.65	0.51	0.64

**P<0.01

表 10 3 因子の順序相関

	出産経験	里帰りの有無	友人の有無	パートナーのサポート	実父母のサポート	義父母のサポート	兄弟姉妹のサポート	友人のサポート	社会的サポート	学校教育
自己コントロール	0.037	-0.074	-0.285**	0.203*	0.043	0.132	-0.052	0.184*	0.228**	0.017
自分の健康に関する意識や行動	-0.074	-0.124	-0.257**	0.265**	0.114	0.159*	0.219**	0.197*	0.239**	-0.124
対人関係	0.069	-0.003	-0.108	0.157	0.126	0.084	0.210**	0.262**	0.080	0.025

*p<0.05 **p<0.01

「自分の健康に関する意識や行動」は「パートナーのサポート」「友人の有無」「社会的サポート」「兄弟姉妹のサポート」「友人のサポート」「義父母のサポート」に有意な関連がみられた。「対人関係」は「友人のサポート」「兄弟姉妹のサポート」に有意な関連がみられた。

また、3 因子に有意な関連を示さなかった項目は、「出産経験」「里帰りの有無」「実父母のサポート」「学校教育の影響」であった。

第 4 章 考 察

1. 妊婦のサポート希求力について

女性は結婚し、妊娠、出産し、新しい家族が増え、人生のこの時期に様々なライフイベントを体験する。ライフイベントを乗り越えるたびに生きる力が養われていく¹⁷⁾。

女性は妊娠し出産し、母親となるライフイベントの中で、妊婦は生きる力を獲得していくと考える。単純に出産するという事だけを捉えて、生きる力が養えるとは考えにくく、何らかの力が身に付き、生きる力につながると考える。

妊婦が妊娠・出産・育児を通して、育児不安や育児困難感がなく、より良い育児を行えるためにはまわりの様々なサポートを受けることが必要である。そこで、上手にサポートを享受する力「サポート希求力」とはどのような事なのかを明らかにするため、F. G. I を行い、妊婦のサポート希求力について質的に内容分析を行った。

サポートとは、支えること、支持する、支援する、助けることを言う。妊婦の周囲にあるサポートには、「家庭」パートナーや実父母、義父母、姉妹兄弟などからのサポート、「仲間」友人などのサポート、「社会の理解」や「専門家」などの社会的なサポートがある。また、妊娠中のサポートしてほしい時期について F. G. I に参加した妊婦全員が「つわりの時期」に最もサポートが必要であると述べていた。

「つわり」は妊婦の 50～80% にみとめられ、吐き気やおう吐などの消化器症状を主としており、心理的・社会的要因も大きく関係し、夫や家族のサポートが必要な時期であるといわれている¹²⁾。

そして、サポートを上手に受けるための力であるサポート希求力は、「自分自身をメタ認知」でき、「ありのままの自分を他者に表現」できる、「アサーティブに他者に向き合う」事ができ

て、「他者に感謝の気持ちを持つ」、「他者に自分を理解してもらう」こと、そして「理解しあう」事ができる力である。言い換えると、自分自身を理解し、自分自身の言葉で、ありのままの自分を他者に表現できること、そして、他者へ感謝の気持ちを持ち、言葉や態度で表現することがサポート希求力の反映であると言える。

妊娠・出産・育児における学校教育は「性の教育」「妊娠に対する教育」「命の大切さ」が実感出来る教育が必要である。「性の教育」には、男女の性の違いやお互いの性を認め合うことが含まれ、「妊娠に対する教育」には他者を思いやる気持ちが含まれる。

さらに、F. G. I の結果から得たサポート希求力には、「出産の経験」や「友人の有無」「里帰り出産」「学校教育の影響」や「パートナーのサポート」「実父母のサポート」「義父母のサポート」「兄弟姉妹のサポート」「社会的サポート」「友人のサポート」が関連していることが示唆された。

2. 妊婦のサポート希求力に関連する要因について

(1) サポート希求力に影響する妊婦自身のもつ力と環境

初産婦は出産の経験がないため妊娠、出産、育児への情報が少なく、具体的なサポートやその方法について理解できていないことが多いと考え、サポート希求力は弱いと仮定していた。しかし、今回の結果からは「出産経験」のサポート希求力への関連性はみられなかった。有意な関連が見られなかったのは、サンプル数の少なさが考えられ、今後の課題としたい。

サポート希求力と関連する要因の「パートナーのサポート」が、サポート希求力に最も多く関連していた。母親の不安・抑うつ傾向には、夫の心身不調や家族関係等の心理が関係する⁷⁾という報告にもあるように、パートナーのサポートは妊婦自身のサポート希求力であることが考えられる。また、産褥期の母親に対しては、受け止め、認めるケアが必須であり¹⁸⁾、産後の母親が求めるサポートは、母親自身が選択した育児技術や育児方法を認めてほしいということである¹⁹⁾と報告されている。このようなサポートは一番そばにいるパートナーからのサポートによるところが大きいと考える。今回の結果は、これらの報告と合致しているといえる。

次に、サポート希求力との関連を多く示していたのは、「兄弟姉妹のサポート」と「親しい友人の有無」であった。本研究ではこれらのサポートの具体的な内容について言及していないが、サポート希求力是对人関係が上手に出来ることが含まれているため、兄弟姉妹や親しい友人はありのままの自分を表現できる身近な相手であり、サポート希求力への関連がみられたのではないかと推察する。

「実父母のサポート」は4項目のみの関連を示していた。実父母のサポートはパートナーと同じぐらいのサポート希求力に関連すると考えていたが、関連する項目は4項目だけであった。実父母は、妊婦にとって、一番自分を理解し受け入れてくれサポートしてもらえる相手であり、サポート希求力への関連が多くあると考えていたが、今回の研究では多くの関連を示すことはなかった。

実父母と妊婦の関係は、家族として基本的な信頼関係が成立しており、相互に深く理解し合っているため、実父母にサポート希求を意識的に行なわずとも無意識にサポート希求を行っており、無意識に自然にサポートされているのではないかと考える。これについての検証は今後の課題である。実父母へのサポート希求内容を具体的にするためには、いつも感謝の気持ちを持ち、サポートを受けていることを意識することで気付く内容があるのではないかと考える。その反面、「義父母のサポート」は「実父母のサポート」に比べ、サポート希求力への関連が多く示された。

サポート希求力の項目 26「分娩や出産に関しての計画が立てられ準備ができる」は、「親しい友人の有無」「パートナーのサポート」「実父母のサポート」「義父母のサポート」「兄弟姉妹のサポート」「友人のサポート」「社会的サポート」と関連性があり、サポート希求力の項目の中で一番多くの関連要因と関連していた。この項目は、出産というイベントを乗り越えていくためのプロセスを具体的に示していた。出産というイベントを乗り越えるための計画、準備には、より多くのサポート希求力が必要となることを示している。

妊娠、出産、育児期は、新しい家族構成員を迎えたことによる家族関係の変化や以前の生活状況との違いを経験する女性のライフサイクル上の移行期である²⁰⁾。この時期は精神的な不安が大きく、身体的にも影響を及ぼすことがいわれ²¹⁾、妊娠中、出産後の心身の状態には、夫や周囲の社会的サポートが大きく影響していることが示唆されている²²⁾。

妊婦は妊娠、出産、育児の問題に対して、情報を集め、その中から正しい情報を選択し、意思決定し問題に対処できるように準備や計画し、行動を起こす力が必要である。そのためには、多くの正しい情報、身体面や心理面の支援が必要である。この時、相談のできる相手が多くいることが関係すると考える。これは、核家族であることや育児相談者がいない状態では母親が育児の対応を一人に課せられたことによるストレスへの影響が大きい²³⁾ということと合致していると考えられる。

(2) 妊婦自身のもつ力と環境との関係

サポート希求力に関連する要因間について χ^2 検定を行い、関連性を考察する。

「里帰りの有無」と「出産経験」「実父母のサポート」は関連しあっていた。

産後の里帰りを育児支援の一つと考えた時、育児支援に果たす役割として「夫以外のものの助力や人手を得やすい」「住居のスペースや周囲の生活環境が実家の方がしばしば優れている」²⁴⁾といわれ、加藤らは産後の里帰りを経験した群は、経験をしなかった群と比べて、妊娠・出産・育児に関する身体的・精神的な助言助力を、実家の親族によって得ることができると里帰りの効果を指摘している²⁵⁾。すなわち、里帰りをするのと「実父母のサポート」を受けることが関連することは当然であると考えられる。

「出産経験」との関連について、経産婦は、初産婦に比べ、里帰りをするためには上の子の幼稚園や保育園、小学校への通学の問題や世話をしてもらう人の調整などを行う必要があり、里帰りしにくいことが考えられる。そのため「里帰り」との関連が示されたのではないかと推察す

る。

「実父母のサポート」は「義父母のサポート」「兄弟姉妹のサポート」「友人のサポート」と関連していた。これらは、より良い関係性、対人関係を保てなければサポートをうけることができない関連要因である。「実父母のサポート」を上手にうけることができることは対人関係が必要となるサポートとの関連性があることが考えられる。

本研究で妊婦の74.5%が、学校教育が妊娠や育児に役立たないと答えていた。学校教育について今後検討をしていくべきであることが示唆された。

(3) サポート希求力の大きさに影響する要因について

関連要因とサポート希求力との関連を Kendall の順序相関係数により分析した(表7)。

「出産経験」と「里帰りの有無」はサポート希求力との有意な順序相関がほとんどみられなかった。経産婦は、出産、育児を経験しているため知識をもっており、妊娠後に起こる問題が予測できると考え、初産婦に比べサポート希求力は高いという仮説を立てていたが、結果は仮説と反していた。これは、出産経験が関連するのではなく、妊婦自身のもつ「自己コントロール」「自分に関する健康への意識や行動」「対人関係」の力がサポート希求力に関連するためであると考えられる。

また「里帰りの有無」においても里帰りをするのは、事前に分娩の計画・準備・調整を行う必要があるため、サポート希求力に関連するという仮説と反していた。確かに、里帰りをするのは事前の計画や準備、調整をすることは必要である。しかし、里帰りは日本における慣習であるため、妊婦自身がサポート希求を行わなくても家族など周囲のサポートが里帰りできるように整えてくれていることから関連がほとんどみられなかったのではないとも考えられる。

「友人の有無」はサポート希求力33項目中16項目に有意な関連が見られ、友人がいる方がサポート希求力に高い関連を示していた。ピア(仲間)、すなわち同じ立場の者どうしが、情報を交換し、悩みを分かち合い、支えあうことで、それぞれに力を得ていくピアサポートができることは育児支援には重要であるといわれている¹²⁾。友人というのは、ありのままの自分を表現でき、共感しあえたり、批判しあえたり、さまざまな情報を集めることができる。友人がいるということは、自己理解し、他者理解でき相互作用によりよい対人関係が成り立っている状態であるとすると、サポート希求力と重なる点が多い。

また、友人のサポートは、義父母、兄弟姉妹のサポートとともに有意な関連を示した。友人のサポートを得ている場合には、家族のサポートも得ている傾向にあったわけである。一方、親しい友人の存在とは無関係であった。

「パートナーのサポートの有無」は、サポート希求力33項目中21項目に、パートナーのサポートがある方にサポート希求力が高いという関連があり、サポート希求力への関連が関連項目の中で一番多かった。これは先述したように、妊婦のサポートには、夫の心身不調や家族関係等の心理が関係⁸⁾し、受け止め、認めるケア⁷⁾が必須である。このようなサポートは一番そばにいるパートナーからのサポートのよるところが多いと考える。

「学校教育の影響」に有意に順序相関が関連する項目は、項目 15・「身近な人との人間関係がよい」、項目 36・「妊娠中の身体的、心理的な苦痛をパートナーが理解してくれる」、項目 37・「困ったときに相談できる専門家がいる」の 3 項目であった。項目 15 は対人関係、項目 36 は他者理解、項目 37 は自己表現と考えられる。

文部科学省の学習指導要領²⁶⁾中学校学習指導要領・道徳の解説によると、「温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し思いやりの心をもつ」、「生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する」などがある。また、学習指導要領の理念「生きる力」は「基礎・基本を確実に身に付け、いかに社会が変化しようと、自ら課題を見つけ、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力」「自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性」といわれている。それらの指導の中で、コミュニケーションなど人間関係の大切さや女性の性への知識の学習の効果が影響しているのではないかと考えられる。しかし、解説の中にはサポート希求力を育成するための具体的な内容、例えば、何か問題が起こったときや困ったときに相談するための方法や専門家に相談することなどは道徳、家庭科、保健体育の解説にはなかった。本研究の結果、妊婦の 74.5% は、学校教育が妊娠や育児に役立たないと答えていたのは、具体的な内容を示した教育が必要であり、またそれらは道徳だけでなく他の教科との連携のもとに指導されていくべき内容であることが考えられる。

さらに、妊婦のサポート希求力は、妊娠してから育成するのではなく、妊娠する前から学校教育の中で仲間とともに集団の中で培われていくものであると考える。

サポート希求力の全ての項目 14~46 において、サポート希求力に関連する要因が少なくとも 1 つ以上は関連していた。ゆえに、サポート希求力はさまざまな関連要因によって影響されることが示唆された。

3. サポート希求力の因子分析

(1) 事前に設定した下位カテゴリーどおりに分かれるのかを検討

F. G. I の結果からサポート希求力は 6 つのカテゴリーに分類された。因子分析を行うことで 6 つのカテゴリーに分かれるかを検証する。

サポート希求力はもともと因子間が関連しているため、想定する下位カテゴリー間の相関があると仮定し、主因子法 Promax 回転による因子分析を行った。天井効果のみられた項目、相関係数が 0.350 以下もしくは複数の因子に 0.350 以上の相関がみられた項目を除外する項目とし、因子数について分析を行った。3、5、6、7、8 因子と仮定し、分析を行った結果、サポート希求力は 3 つの因子に分けることができた。3 つの因子間の相関係数は高いが、1 つの項目が多く関連した因子を持つことが考えられるため、全く独立した因子と考えるのは妥当でなく、それぞれの因子が何らかの関連性を持ちサポート希求力となると考える。

因子分析の結果、F. G. I の結果の 6 因子「自分自身をメタ認知できる」「ありのままの自分を他者に表現できる」「アサーティブに他者と向き合う」「他者に自分を理解してもらおう」「他者へ

の感謝の気持ちをもつ」「理解しあう」ではなく、3因子「自己コントロール」「自分の健康に関する意識や行動」「対人関係」に分類された。しかし、両者の関係は、まったく違った分類ではなく、F. G. I の6因子がそれぞれに関連しあい、重なりあっている部分を再考し、より抽象度を上げることにより、3因子に分類できるのではないかと考える。

(2) サポート希求力の因子名

F. G. I の結果と先行文献より、抽出されたサポート希求力について出来るだけ共通因子の少ない項目を抽出し、サポート希求力をより具体的な項目として査定する。

3つの因子名を検討する。第1因子である項目31、38、39、43、44、45、46、は上手に自分自身の感情や行動をコントロール出来る力を示している。その為「自己をコントロールし心身ともにより良い状態にする」=「自己コントロール」とした。第2因子は、項目18、20、21、23、25、26、27、29からなり、自分自身の体の変化や健康状態について理解できる事を示しており、「健康問題について自分自身の事を正しく理解し興味をもつ」=「自分の健康に関する意識や行動」とした。第3因子は、項目17、33、34、35、42からなり、パートナーや身近な人と上手に対人関係を持つことができ、相談できる事を表しているため「ありのままの自分を表現し、よりよい対人関係をもつことができる」=「対人関係」とした。

「自己コントロール」「自分の健康に関する意識や行動」「対人関係」の3つの因子がサポートを希求するための力であることがわかった。そして、3つの因子はサポート希求の実現のための過程を示しているのではないかと考えられる。

健康問題について自己を正しく客観的にメタ認知し理解できた（「自分の健康に関する意識や行動」）上で、自分自身の感情や情緒いわゆる自己をコントロールする（「自己コントロール」）ことが必要である。そして、ありのままの自分を素直に相手に表現でき、よりよい対人関係がとれること（「対人関係」）がサポート希求力であるという知見を得ることができた。

また、下位カテゴリー間の相関についても、それぞれに α 係数も高く、内定整合性もみとめることができた。「対人関係」は他の因子に比べ0.64と低めではあるが、対人関係という幅広い概念と考えるため、この5つの項目だけでは十分に対人関係を表すのは難しいのではないかと考える。3因子間の相関関係は正の相関を示していた。つまり、「自己コントロール」が高い人は「自分の健康に関する意識や行動」も「対人関係」も高いのである。それぞれが関連しあってサポート希求を構成していることがわかった。

(3) F. G. I の6因子と因子分析による3因子の関係

因子分析によって分類された3因子は、F. G. I の結果から導き出された6因子の項目内容が重複していた。F. G. I の分類は、他者と自己との対人関係性を中心に分析を行っていたため、健康に関する意識や行動についての項目を分類することは出来なかった。しかし、因子分析を行うことで、サポート希求力は、自分と他者の関係性だけではなく、健康に関する意識や行動も含まれることがわかった。

F. G. I の6因子は自己と他者との対人関係性を細かく分類したものであり、6因子の内容を自

己と他者の関係について「対人関係」という枠組みとし、「対人関係」に含まれる項目以外で分類を行うと「自己コントロール」「自分の健康に関する意識や行動」の因子に分類出来ると考える。

サポート希求力とは、サポートする側とサポートされる側の関係性だけであらわせるものではないことが示唆された。

本研究では、サポート希求力を3因子に分類したが、因子に含まれる内容が十分でない項目もいくつか含まれており、また、得られたデータを一般化するにはサンプル数が102と少なく、サンプル数を増やし、内容とともに検討していくことが今後の課題である。

第5章 結論

妊婦のサポート希求力は、自分自身を冷静に客観的に理解し、自己を上手にコントロールし、自分自身の言葉で、ありのままの自分を他者にアサーティブに表現できる力であった。そして、他者へいつも感謝の気持ちを持ち、その感情を言葉や態度で表現することを伴うことでサポートを受けることができるといえる。すなわち、健康への自己理解を深め、自己コントロールでき、より良い対人関係を築くことができると、双方が理解しあえサポートを受けることができる。そして、妊婦を取り巻くサポート環境、「家庭」すなわちパートナーや実父母、義父母、姉妹兄弟のサポートや「仲間」友人などのサポート、「社会の理解」や「専門家」の社会的なサポートが整っていることがサポートを受けるためには必要であることがわかった。

また、妊婦のサポート希求力を育成していくには、母親学級での妊婦自身に力をつけるための教育を行うことが必要である。さらに、周囲の環境を整えた上で、妊婦自身にその環境を上手に利用できるスキルを教育していく必要がある。

引用文献

- 1) 蒲原基道：これからの総合的な子育てについて考える，現代のエスプリ，2001，408，p 93-100
- 2) 富岡晶子：育児支援に関する研究の動向と課題，川崎市立看護短期大学紀要，2004，p 1-10
- 3) James S. House：WorkStress and Social Support, Addison-Wesley, Reading, MA, 1981
- 4) 松井豊：対人行動研究シリーズ7人を支える心の科学，誠信書房，1998，p 195
- 5) 田中宏二：育児ストレスにおけるソーシャル・サポート研究の概観，岡山大学紀要，1996，p 177-185
- 6) 芳賀道：母親の育児ストレスに対する父親のソーシャル・サポートの緩衝効果について，大学研究年報，2001，30，p 211-218
- 7) 佐々木綾子：母親の育児支援に関する基礎的研究（1），福井医科大学研究雑誌，2001，1. 3. p 427-445
- 8) 間三千夫：母親の育児ストレス・コーピングと精神的健康の関係，和歌山大学研究雑誌，1998，p 54-58
- 9) 富岡晶子：育児支援に関する研究の動向と課題，川崎市立看護短期大学紀要，2004，p 1-10
- 10) 山村文：幼児をもと母親の生活満足度とソーシャル・サポートの関連性について，帝京大学心理学紀要，2005，9，p 73-92
- 11) 厚生労働省ホームページ 2008. 12. 15 http://www.1.mhlw.go.jp/topics/syousika/tp_0816-3_18.html

- 12) 石井邦子：系統看護学講座 専門 25 母性看護学各論，医学書院，2008，p 56-60
- 13) 佐藤達哉：育児ストレスとその抑うつ重症度との関連，心理学研究，64，p 409-416
- 14) Lazarus, R. S., & Folkman, S.: Stress, appraisal, and coping. New york : Springer
- 15) 南貴子：育児初期の母親の育児支援のあり方に関する検討；「産後の里帰り」経験に焦点をあてて，日本家政学会誌，2006，57，12，p 807-817
- 16) 堀内成子：臨床看護学総論，医学書院，2005，p 45-53
- 17) 北村琴美：成人の娘の心理適応と母娘関係：娘の結婚・出産というライフイベントに着目して，発達心理学研究，2001，12，1，p 46-57
- 18) 小林康江ら：1 か月の子供を育てる母親の育児困難感，山梨看護ジャーナル，2006，Vol.5 No.1，9-16
- 19) 鶴山愛子ら：産後1か月の母親が必要としているソーシャル・サポートの検討，日本ウーマンズヘルス学会誌，2004，4：19-31
- 20) 南貴子ら：育児初期の母親の育児支援のあり方に関する検討-「産後の里帰り」経験に焦点をあてて-，日本家政学会誌，2006，Vol.57 No.12，807-817
- 21) 駒田洋子：妊婦の睡眠習慣と睡眠健康に関する横断的探索的研究，日本女性心身医学会雑誌，2002，Vol.7 No.1，87-94
- 22) 吉川由希子ら：青森県における周産期保健の現状（第3報）～出産後の妊産婦への質問紙調査から～，2006，7(1)，135-144
- 23) 田淵紀子ら：生後1か月から1年までの乳児の泣きに対する母親の情動反応に関する縦断的研究，日本助産学会誌，2006，Vol.20 No.1，26-36
- 24) 品川信良ら：「里帰り分娩」に対する社会医学的考察，日本医師会雑誌，1978，80，351-355
- 25) 加藤忠明ら：里帰り分娩の実態調査，小児保健研究，1986，45，32-36
- 26) 文部科学省ホームページ 2008. 12. 19 [http : //www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/chu/gika.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/chu/gika.htm)
[http : //www.mext.go.jp/](http://www.mext.go.jp/)

[たなか ひびき 看護基礎学]